



No. 8-1
近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成28年度第4回

一般国道158号

お お の あぶらさか
大野油坂道路
いずみ あぶらさか
(和泉・油坂区間)

【再評価】

平成28年12月
近畿地方整備局

目次

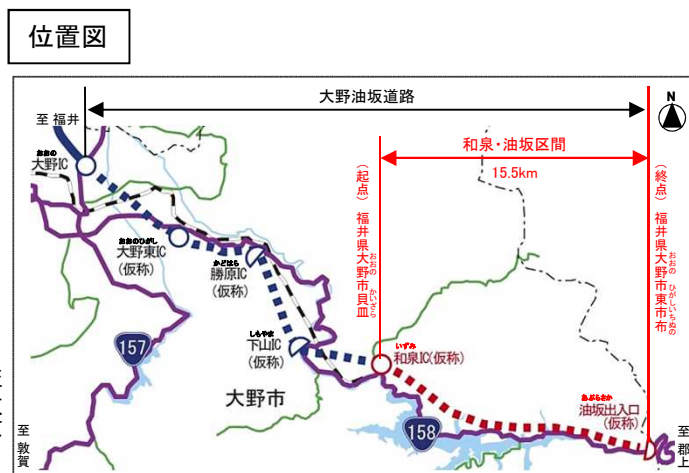
1. 事業の概要
2. 事業の必要性等に関する視点
 - 1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化
 - 2) 事業の整備効果
 - 3) 事業の投資効果
 - 4) 地域における計画等
3. 事業の進捗の見込みの視点
4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点
5. 関係自治体の意見
6. 対応方針(原案)

事業全体図

一般国道158号 大野油坂道路 (和泉・油坂区間)

中部縦貫自動車道は、長野県松本市^{まつもと}を起点とし、岐阜県高山市^{たかやま}・福井県大野市^{おおの}を経て、福井県福井市に至る延長約160kmの高規格幹線道路であり、中央自動車道長野線・東海北陸自動車道・北陸自動車道を相互に連絡し、交通の円滑化を図るなど、重要な役割を担っています。

大野油坂道路(和泉・油坂区間)は、中部縦貫自動車道の一部を構成し、安全・安心の交通の確保、医療施設へのアクセス性向上を目的とした延長15.5kmの自動車専用道路です。



凡例

- ■ ■ 大野油坂道路 和泉・油坂区間 (事業中)
- 高規格幹線道路 (開通済)
- ■ ■ 高規格幹線道路 (事業中)
- □ □ 高規格幹線道路 (調査中)
- 一般国道
- 県道

1. 事業の概要

一般国道158号 大野油坂道路 (和泉・油坂区間)

事業の目的

- 安全・安心の交通の確保
- 医療施設へのアクセス性の向上

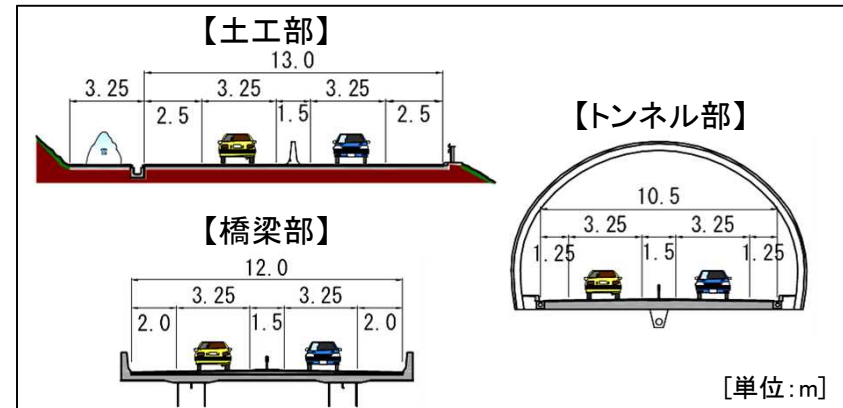


事業の概要

区間	(起) 福井県大野市貝血 (終) 福井県大野市東市布
道路延長	15.5km
構造規格	第1種第4級
設計速度	60km/h
車線数	2車線
標準幅員	13.0m
計画交通量	7,900台/日
全体事業費	約595億円
事業化	平成24年度
都市計画決定	-
用地着手	平成26年度
工事着手	-
事業進捗率	約2%(平成28年3月末現在)
用地取得率	約4%(面積ベース、同上)



標準断面図



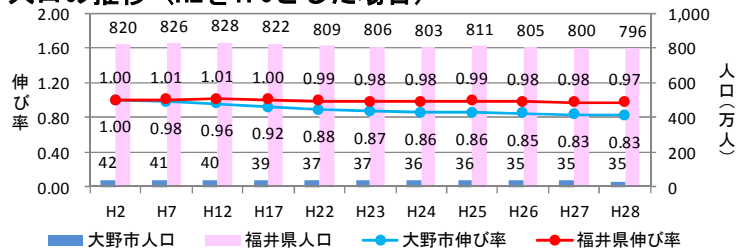
2. 事業の必要性等に関する視点

一般国道158号 大野油坂道路
(和泉・油坂区間)

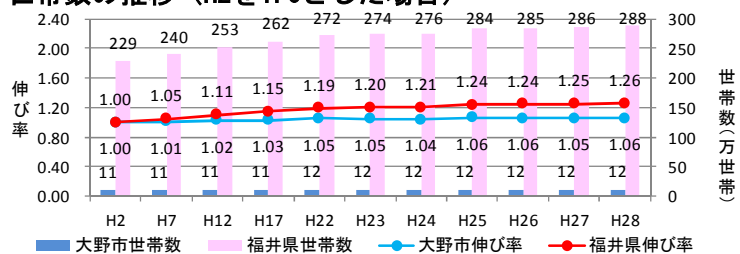
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 大野油坂道路(和泉・油坂区間)沿線の福井県大野市は、近年、人口は減少傾向、世帯数、自動車保有台数は横ばい傾向にある。
- 大野油坂道路のうち、未事業化区間であった大野・大野東区間は、平成27年度に事業化し、現在、全線に渡って事業を推進している。

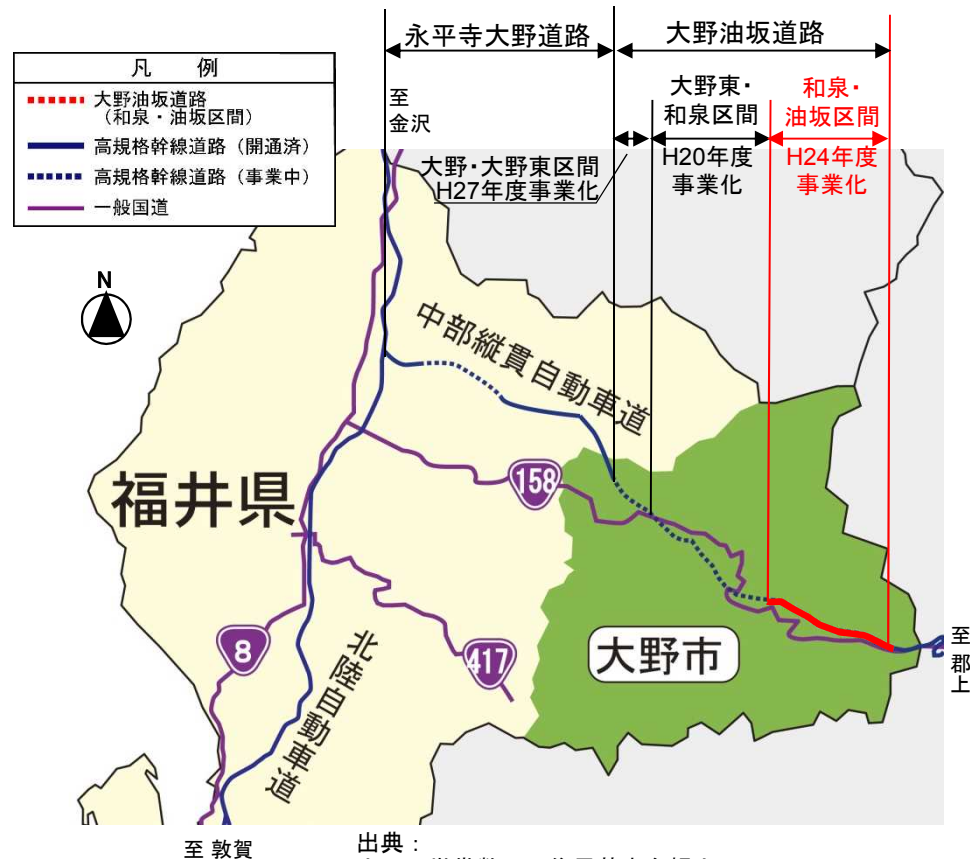
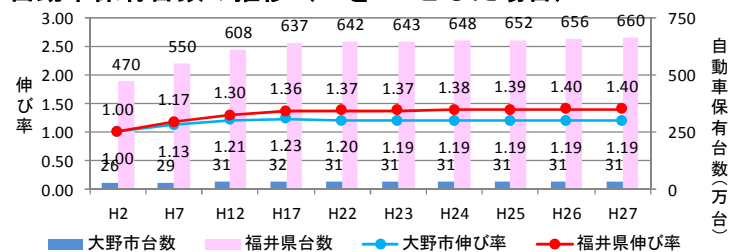
▼人口の推移 (H2を1.0とした場合)



▼世帯数の推移 (H2を1.0とした場合)



▼自動車保有台数の推移 (H2を1.0とした場合)



出典：
人口・世帯数 住民基本台帳人口
自動車保有台数 国土交通省中部運輸局、福井県

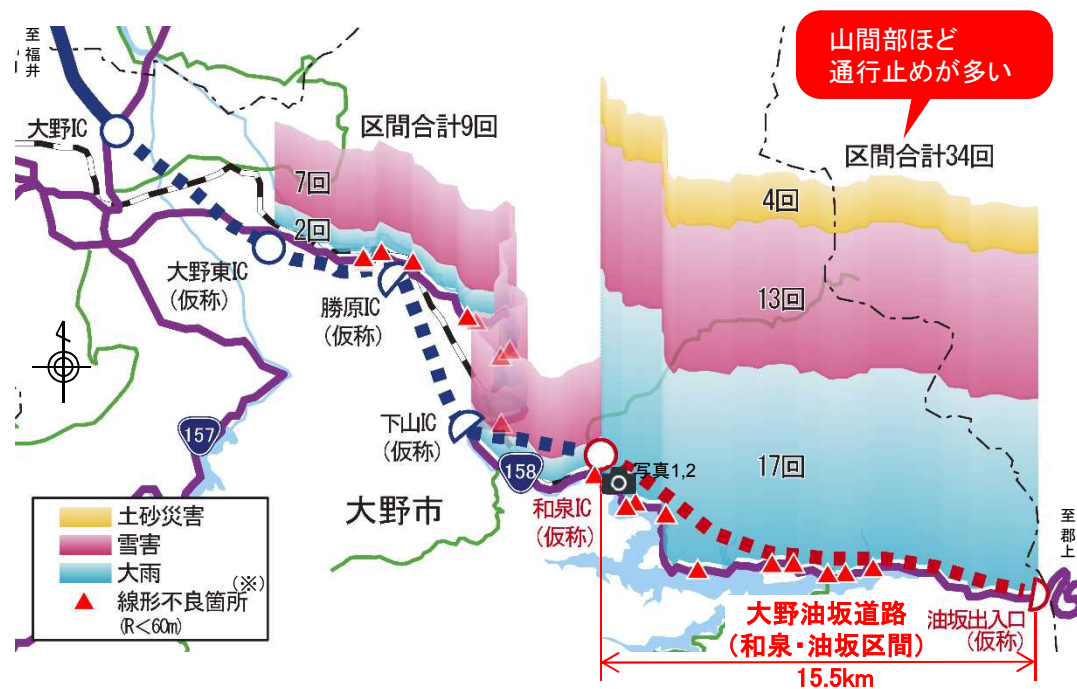
2. 事業の必要性等に関する視点

一般国道158号 大野油坂道路
(和泉・油坂区間)

2) 事業の整備効果(安全・安心の交通の確保)

- 本事業区間と並行する国道158号は、過去15年間で大雨、積雪、落石・土砂崩れ等による通行止めが34回発生。また同区間内には、平面線形が厳しい箇所が10箇所あり、安全・安心な通行の確保が課題となっている。
- 大野油坂道路(和泉・油坂区間)の整備により、これらを解消し、安全・安心の交通の確保が期待される。

▼ 国道158号の自然災害による通行止め回数 (H13~H27)



出典: 福井県提供

土砂崩れの状況(大野市長野)



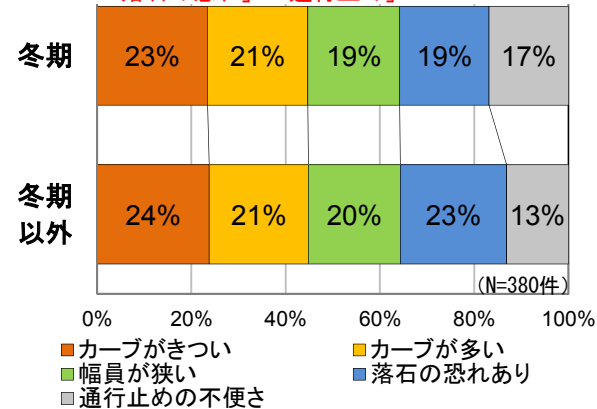
写真1



写真2

交通状況の不満の声
(国道158号 和泉～油坂出口区間)

不満が多い「線形の悪さ」「幅員の狭さ」「落石の恐れ」「通行止め」



出典: 福井市・坂井市・永平寺町・勝山市・大野市・郡上市の住民を対象としたWEBアンケート調査結果(福井河川国道事務所(H28.8))

※線形不良箇所は設計速度40km/hの最小曲線半径の規定値を満たさない箇所

2. 事業の必要性等に関する視点

一般国道158号 大野油坂道路
(和泉・油坂区間)

2) 事業の整備効果(医療施設へのアクセス性向上)

- 本事業箇所の並行する国道158号は、全区間が異常気象時通行止区間であり、また線形が厳しい箇所もあり、救急搬送時の速達性・走行安定性の確保が課題となっている。
- 大野油坂道路(和泉・油坂区間)の開通により、大野市東部の旧和泉村周辺から最寄りの第二次医療施設である鷺見病院までの所要時間が36分から27分に9分短縮されるほか、第三次医療施設の中濃厚生病院へのアクセス性も向上するなど、医療サービスの選択肢が拡大。

▼ 旧和泉村役場周辺の主要医療施設



※第二次医療施設：入院を要する救急医療を担う医療施設(病院群輪番体制施設も含む)
第三次医療施設：重篤な救急患者に対し、高度な医療を24時間体制で提供する医療施設

表 旧和泉村役場周辺の主要医療施設

種類	福井県(福井・坂井・奥越)	所要時間(分)			岐阜県(中濃)	所要時間(分)		
		開通前	開通後	短縮		開通前	開通後	短縮
三次	福井県立病院	68	50	18	中濃厚生病院	78	69	9
	福井赤十字病院	86	68	18	鷺見病院	36	27	9
	福井県済生会病院	65	47	18	国保白鳥病院	36	27	9
二次	福井大学医学部附属病院	65	47	18	郡上市民病院	50	41	9
	福井総合病院	92	74	18	国保和良診療所	76	67	9
	福井勝山総合病院	44	31	13				

資料：第6次福井県医療計画、岐阜県保健医療計画(第6期)

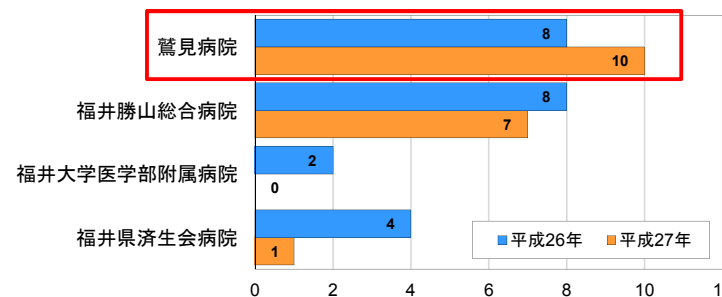


図 過去2年間の旧和泉村からの搬送実績(件) 資料：大野市消防本部

沿線消防本部の声



事故の発生場所や傷病者の状態により、岐阜県側に搬送することがあります。その際に通る、国道158号はカーブ区間が多く、車両の横揺れや振動が多く傷病者の負担になります。

開通によって、カーブ区間の減少と高速走行が可能になることによる傷病者への負担減や、路面状況の改善で安定した救急処置が可能になることに期待しています。

資料：大野市消防本部ヒアリング調査結果(H28.8)

2. 事業の必要性等に関する視点

一般国道158号 大野油坂道路
(和泉・油坂区間)

3) 事業の投資効果

■ 便益 (B)

費用便益分析マニュアルに基づき、現時点における知見により、十分な精度で計測が可能でかつ金銭表現が可能である「走行時間短縮」、「走行経費減少」、「交通事故減少」について、道路整備の有無それぞれについて推計し算出。

■ 費用 (C)

道路整備に係る建設費、及び維持管理費で算出。

■ 事業全体

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益	費用便益比 (B/C)
	521億円	141億円	18億円	680億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用	
	474億円		52億円	526億円	

■ 算出条件等

基準年 : 平成28年度
 検討期間 : 50年間
 現在価値算出のための社会的割引率 : 4%
 交通量の推計時点 : 平成42年度
 交通量の推計手法 : 平成17年度
 道路交通センサス統合推計モデル【第二段階】
 適用した費用便益分析マニュアル : 平成20年11月版
 事業費 : 595億円
 維持管理費 : 21百万円/km
 作成主体 : 近畿地方整備局

■ 残事業

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益	費用便益比 (B/C)
	521億円	141億円	18億円	680億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用	
	456億円		52億円	508億円	

※1 便益・費用については、現在価値化した値である

※2 便益・費用の合計値については、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある

※3 残事業については、基準年の翌年度以降の残事業費及び翌年度以降の供用により発生する便益で算出している

2. 事業の必要性等に関する視点

一般国道158号 大野油坂道路
(和泉・油坂区間)

4) 地域における計画等

地域における計画

大野油坂道路(和泉・油坂区間)は、下記の計画に位置づけられています。

- 福井県民の将来ビジョン[平成23年度～平成32年度](平成22年12月)
- 福井ふるさと元気宣言[平成27年度～平成30年度](平成27年3月)
- 第五次大野市総合計画 後期基本計画[平成23年度～平成32年度](平成28年3月)

要望経緯

- ◇平成6年6月 中部縦貫自動車道大野油坂道路整備促進連絡協議会 設立
 - ・構成メンバー： 大野市長、大野市議会議長、大野商工会議所会頭、大野市区長連合会会長他)
 - ・最近の動向： 平成28年8月5日に国土交通大臣に対し、大野油坂道路の早期全線開通を要望
- ◇福井県知事
 - ・最近の動向： 平成28年7月1日に国土交通大臣に対し、大野油坂道路の整備促進を要望
- ◇福井県知事、大野市長、勝山市長
 - ・最近の動向： 平成28年10月3日に国土交通大臣に対し、大野油坂道路の早期全線開通を要望
- ◇大野市長、郡上市長
 - ・最近の動向： 平成28年8月9日に国土交通大臣に対し、大野油坂道路の早期全線開通を要望
- ◇大野・勝山地区広域行政事務組合
 - ・構成メンバー： 勝山市長、大野市長、大野・勝山地区広域行政事務組合議長、副議長)
 - ・最近の動向： 平成28年8月31日に近畿地方整備局長に対し、大野油坂道路の早期全線開通を要望

3. 事業の進捗の見込みの視点

一般国道158号 大野油坂道路
(和泉・油坂区間)

1) 事業の進捗状況

平成28年度事業内容

- ・現在、用地取得、調査設計を実施しています。

進捗状況

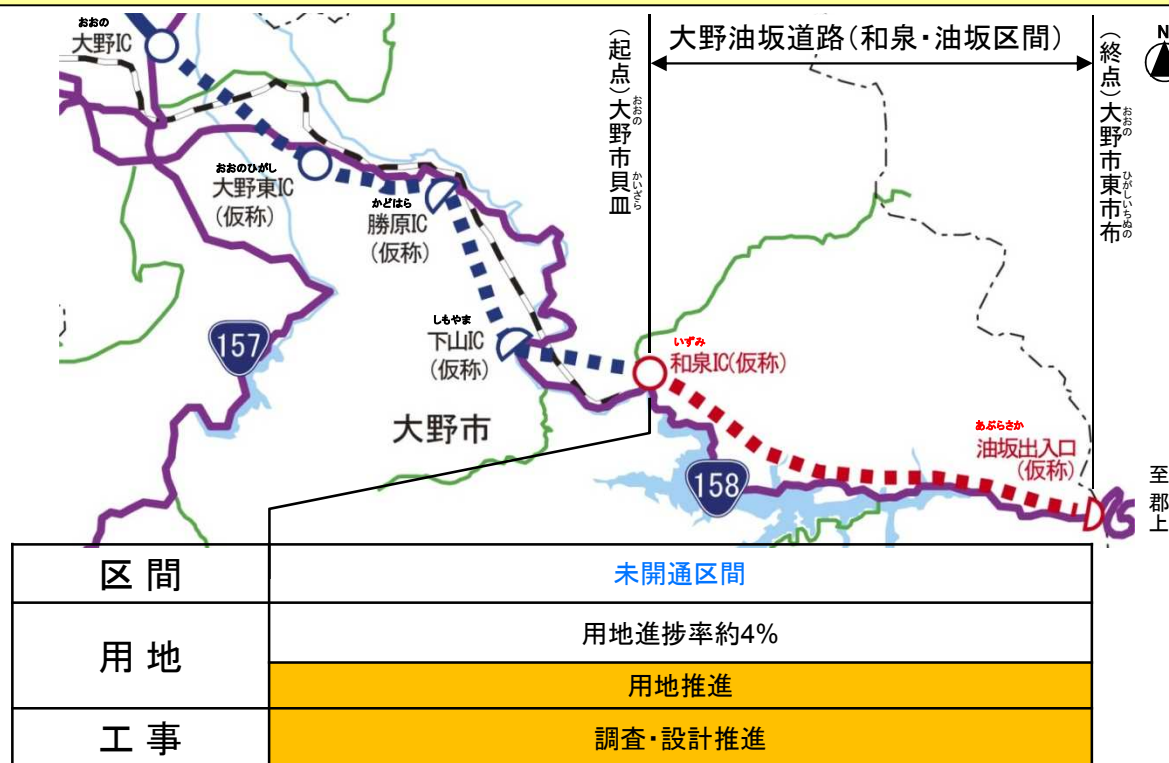
- ・平成27年度末までの進捗は用地進捗率約4%(面積ベース)、事業進捗率約2%(事業費ベース)です。

事業進捗上の課題

- ・大きな課題はありません。

2) 今後の事業スケジュール

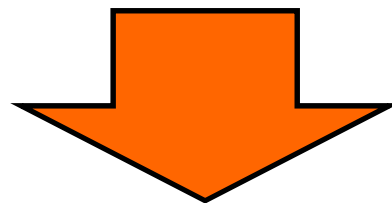
- ・引き続き用地取得を推進し、早期の開通を目指します。



※用地取得率はH28年3月時点の面積ベース。

4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

大野油坂道路(和泉・油坂区間)の計画は、安定した交通路確保、医療活動への支援、地域の活性化、災害時の代替路の確保等を勘案し、選定された合理的な計画であり、引き続き事業を推進していきます。



今後も、技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら、引き続き事業を推進していきます。

5. 関係自治体の意見

一般国道158号 大野油坂道路
(和泉・油坂区間)

■福井県知事

平成28年11月30日 土政推第277号
近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針(原案)の作成に係る意見照会
について(回答)

一般国道158号大野油坂道路(和泉・油坂区間)の対応方針(原案)「事業継続」については異存ありません。

大野油坂道路については、北陸新幹線敦賀開業に合わせた平成34年度までの全線開通が図られるよう必要な予算を確保するとともに、本区間及び大野・大野東区間の速やかな用地買収・工事着手と大野東・和泉区間の迅速な工事の実施をお願いしたい。

5. 関係自治体の意見

一般国道158号 大野油坂道路
(和泉・油坂区間)

◆ 沿線市町村の期待

■ 大野市長

大野市にとって中部縦貫自動車道は、広域交通の円滑化や文化・観光資源を生かした地域振興や産業経済の発展、地震など災害時の緊急輸送・救急医療活動の支援、冬季における安全で安心な交通の確保のために真に必要な道路であり、まさに「生命の道」「生活の道」「希望の道」です。

(期待する効果)

①安全・安心な交通の確保

・大野油坂道路(和泉・油坂区間)と並行する国道158号は、大雨、積雪、落石・土砂崩れ等による通行止が頻繁に発生しているとともに平面線形不良箇所も多く、本道路の整備によりこれらが解消されます。

②医療活動への支援

・大野油坂道路(和泉・油坂区間)の整備により、大野市東部の旧和泉村から最寄の二次医療施設、三次医療施設までの所要時間の短縮、アクセス性の向上が期待されます。

③地域経済の活性化

・大野油坂道路(和泉・油坂区間)の開通により、東海北陸自動車道と相互連絡し、高速交通ネットワークが構築され中京圏等とのアクセス性が向上することから観光客の増加が期待されます。

(取り組み)

①「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核となる施設の整備

・中部縦貫自動車道の全線開通を見据え、全国に誇れる魅力ある大野市の実現に向け、「結の故郷 越前おおの」のさまざまな地域資源に関する情報を的確に提供し、積極的に市内への誘客を図るとともに、大規模災害時に後方支援を行う「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核となる施設として、重点道の駅「(仮称)結の故郷」の整備に取り組みます。

②積極的な企業誘致

・中部縦貫自動車道開通の効果を生かせる企業や若年層の関心が高い情報技術関連企業などを積極的に誘致するため新たな産業団地の整備を始めています。

③広域連携による周遊観光の推進

・中部縦貫自動車道開通の全線開通や北陸新幹線の福井・敦賀延伸を見据え、第5次大野市総合計画後期基本計画では、「平成32年度、観光入り込み客数220万人」を目標に掲げ、中京方面の観光地との連携による広域観光に取り組み、ルートの開発や合同での出向宣伝などにより周遊観光を推進します。

6. 対応方針(原案)

一般国道158号 大野油坂道路
(和泉・油坂区間)

1. 事業の必要性等に関する視点

- ・大野油坂道路（和泉・油坂区間）と並行する国道158号は、大雨、積雪、落石・土砂崩れ等による通行止が頻繁に発生しているとともに、平面線形が厳しい箇所が10箇所あり、安全・安心な通行の確保が課題になっているが、本道路の整備により、これらが解消される。
- ・大野油坂道路（和泉・油坂区間）の整備により、大野市東部の旧和泉村周辺の最寄りの二次医療施設、三次医療施設までの所要時間が短縮、アクセス性が向上することから医療サービス水準の向上が期待される。
- ・大野油坂区間（和泉・油坂区間）の費用便益比（B/C）は事業全体で1.3、残事業で1.3。

2. 事業進捗の見込みの視点

- ・大野油坂道路（和泉・油坂区間）は、平成24年度に事業化し、現在用地取得、調査・設計を推進。
- ・平成26年度より用地取得に着手し、平成28年3月時点で約4%取得済み。
- ・大野油坂道路（和泉・油坂区間）は引き続き事業を推進し、早期の開通を目指します。

大野油坂道路（和泉・油坂区間）は、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。

引き続き事業を推進し、早期の開通を目指すことが適切である。

事業継続



No. 8-2
近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成28年度第4回

一般国道158号

お お の あ ぶ ら さ か

大野油坂道路

い ず み あ ぶ ら さ か

(和泉・油坂区間)

【再評価】

平成28年12月
近畿地方整備局

様式 1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	国道158号 大野油坂道路（和泉・油坂区間）
事業主体	近畿地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

		指 標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 便益が費用を上回っている	全事業：費用便益比（B/C）=1.3（経済的純現在価値（B-C）=154億円、経済的内部収益率（EIRR）=5.6%） 残事業：費用便益比（B/C）=1.3（経済的純現在価値（B-C）=172億円、経済的内部収益率（EIRR）=5.8%）

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標		指 標（対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは□を■に変更）	指標チェックの根拠
1. 活力	円滑なモビリティの確保	<input checked="" type="checkbox"/> 並行区間等の年間渋滞損失時間（人・時間）及び削減率	区間a（費用便益分析対象区間）について 渋滞損失時間（現況）：78528万人・時間/年 渋滞損失削減時間：66万人・時間/年（147369万人・時間/年⇒147303万人・時間/年） 区間b（当該区間／並行区間）について：国道158号 並行区間等（当該区間）の渋滞損失時間：23万人・時間/年 並行区間等（当該区間）の渋滞損失削減率：10割削減
		<input type="checkbox"/> 並行区間等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	
		<input checked="" type="checkbox"/> 並行区間等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する又は新たなバス路線が期待できる	大野市市営バス（前坂線）
		<input type="checkbox"/> 新幹線駅へのアクセス向上が見込まれる	
		<input type="checkbox"/> 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	
	物流効率化の支援	<input type="checkbox"/> 特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上が見込まれる	
		<input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業を主体とする地域から大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる	大野市（さといも）、主な出荷先 福井市（福井市中央卸売市場）、岐阜市（岐阜市中央卸売市場）
	都市の再生	<input type="checkbox"/> 都市再生プロジェクトを支援する事業である	
		<input type="checkbox"/> 三大都市圏の環状道路を形成する	
		<input type="checkbox"/> 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり	

1. 活力	国土・地域ネットワークの構築	<input checked="" type="checkbox"/> 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	長野県松本市～福井県福井市間を結ぶ中部縦貫自動車道の一部を構成する
		<input checked="" type="checkbox"/> 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	大野市～郡上市
		<input checked="" type="checkbox"/> 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる	大野市（旧和泉村役場）～郡上市（所要時間：53分～44分）
	個性ある地域の形成	<input checked="" type="checkbox"/> 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する	越前美濃街道広域観光交流の支援、大野市和泉地区化石保全活用計画、越前おおのブランド戦略
		<input checked="" type="checkbox"/> IC等からのアクセスが向上する主要な観光地が存在する	大野まちなか観光（年間観光客入込数：924千人/年 H27年）、九頭竜湖（年間観光客入込数：307千人/年 H27年）
		<input type="checkbox"/> 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である	
2. 暮らし	安全で安心できるくらしの確保	<input type="checkbox"/> 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる	
3. 安全	安全な生活環境の確保	<input type="checkbox"/> 並行区間等に死傷事故率が500件/徳台キロ以上である区間が存在する場合において、交通量の減少により当該区間の安全性の向上が期待できる	
	災害への備え	<input checked="" type="checkbox"/> 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり	福井県地域防災計画（緊急交通路：広域交通規制路線） 道路防災情報Webマップ（緊急輸送道路）
		<input checked="" type="checkbox"/> 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する	国道158号（大野市貝皿～大野市東市布区間）
		<input type="checkbox"/> 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する	
		<input checked="" type="checkbox"/> 並行区間等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間の代替路線を形成する	事前通行規制区間 国道158号 大野市下唯野～大野市東市布区間
4. 環境	地球環境の保全	<input checked="" type="checkbox"/> 対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量	CO2排出削減量：15739.84t-CO2/年
	生活環境の改善・保全	<input checked="" type="checkbox"/> 並行区間等における自動車からのNO2排出削減率	（推計結果） 評価対象区間（現道／平行区間等）：国道158号 排出削減量：37.29t/年、排出削減率：9割削減 （バイパス事業の場合）バイパス等についてNOx排出増加量：51.85t/年
		<input checked="" type="checkbox"/> 並行区間等における自動車からのSPM排出削減率	（推計結果） 評価対象区間（現道／平行区間等）：国道158号 排出削減量：2.15t/年、排出削減率：9割削減 （バイパス事業の場合）バイパス等についてSPM排出増加量：2.96t/年
		<input type="checkbox"/> 並行区間等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある	
		<input type="checkbox"/> その他、環境や景観上の効果が期待される	
5. その他	他のプロジェクトとの関係	<input checked="" type="checkbox"/> 他機関との連携プログラムに位置づけられている	第五次大野市総合計画 後期基本計画（中部縦貫自動車道の整備促進） 大野市都市マスタープラン（中部縦貫自動車道の整備促進） 福井県民の将来ビジョン（中部縦貫自動車道の整備促進） 福井ふるさと元氣宣言（中部縦貫自動車道の整備促進） 道路の中期計画（近畿地方版）（高規格道路の整備）
	その他	<input type="checkbox"/> その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が期待される	

(再評価)

様式 - 2

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・その他の別
国道158号	大野油坂道路 (和泉・油坂区 間)	L = 15.5km	高規格B	BP

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
7,900	2車線	近畿地方整備局

① 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成28年度		
単純合計	551億円	153億円	705億円
うち残事業分	534億円	153億円	687億円
基準年における 現在価値 (C)	474億円	52億円	526億円
うち残事業分	456億円	52億円	508億円

② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成28年度			
供用年	平成35年度			
単年便益 (初年便益)	31億円	8.2億円	1.2億円	40億円
基準年における 現在価値 (B)	521億円	141億円	18億円	680億円
うち残事業分	521億円	141億円	18億円	680億円

注) 「供用年」は、便益算定上の仮定の供用年である。

③ 結果

費用便益比（事業全体）	1.3
経済的純現在価値（事業全体）	154億円
経済的内部収益率（事業全体）	5.6%
費用便益比（残事業）	1.3
経済的純現在価値（残事業）	172億円
経済的内部収益率（残事業）	5.8%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感度分析

【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B/C）
交通量	7,900台/日	±10%	1.1~1.5
事業費	534億円	±10%	1.2~1.4
事業期間	6年	±20%	1.3~1.3

【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B/C）
交通量	7,900台/日	±10%	1.1~1.6
事業費	534億円	±10%	1.2~1.5
事業期間	6年	±20%	1.3~1.4

交通状況の変化

様式-3①

事業名：大野油坂道路（和泉・油坂区間）（事業全体）

（推計時点 H42年）

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 (15.5km)	交通量 ^{※1}	[台/日]	0	7,900	
	走行時間 ^{※2}	[分]	0	19	
	走行時間費用 ^{※3}	[億円/年]	0.00	33.60	
②主な周辺道路 ^{※4}	国道158号 (18.5km)	交通量	[台/日]	3,800	300
		走行時間	[分]	30	25
		走行時間費用	[億円/年]	27.30	1.89
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
	③その他道路合計 (25,478.5km)	走行時間費用	[億円/年]	87,874.74	87,833.71
				走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)
		合計：25,512.5km	走行時間短縮便益 [億円/年]	87,902.05	87,869.19

※1： 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。

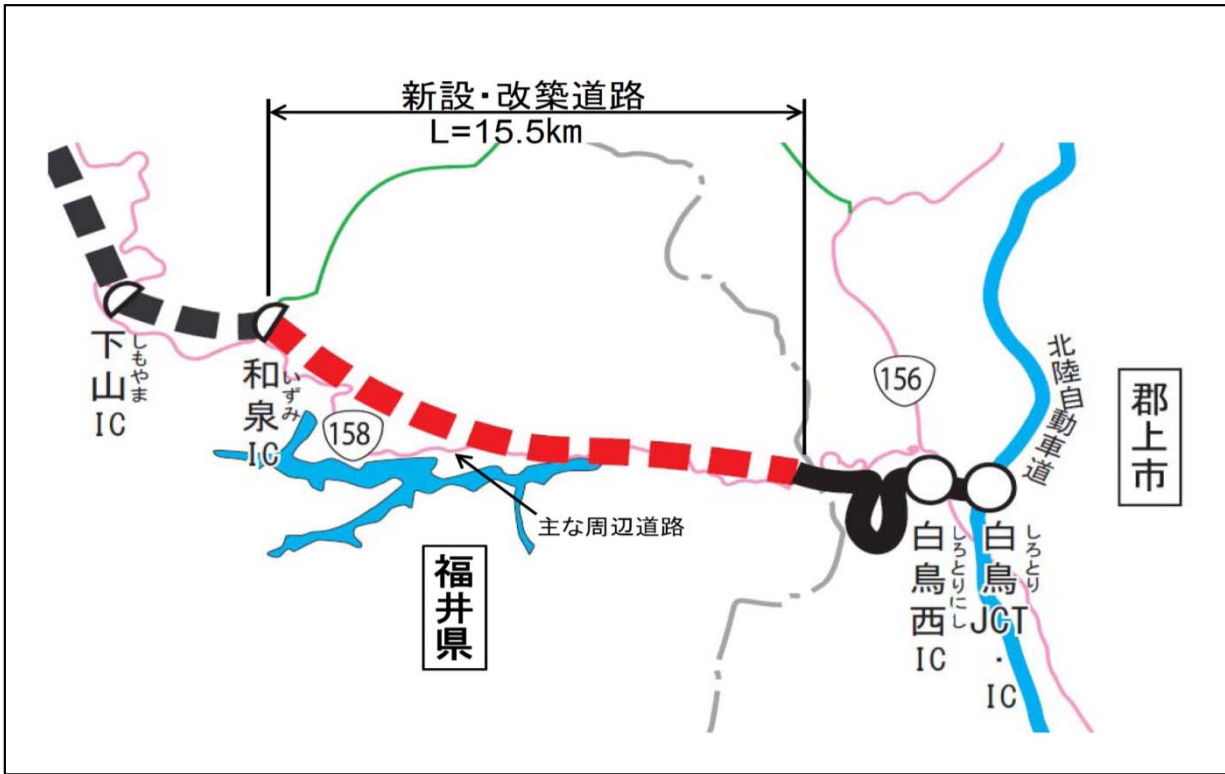
※2： 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。

※3： 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。

※4： 当該事業により大きな変化が生じる道路について3～5路線程度以内で記載する。

※5： ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること



交通状況の変化

様式-3①

事業名：大野油坂道路（和泉・油坂区間）（残事業）

（推計時点 H42年）

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 (15.5km)	交通量 ^{※1}	[台/日]	0	7,900	
	走行時間 ^{※2}	[分]	0	19	
	走行時間費用 ^{※3}	[億円/年]	0.00	33.60	
②主な周辺道路 ^{※4}	国道158号 (18.5km)	交通量	[台/日]	3,800	300
		走行時間	[分]	30	25
		走行時間費用	[億円/年]	27.30	1.89
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
	③その他道路合計 (25,478.5km)	走行時間費用	[億円/年]	87,874.74	87,833.71
				走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)
		合計：25,512.5km	走行時間短縮便益 [億円/年]	87,902.05	87,869.19

※1： 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。

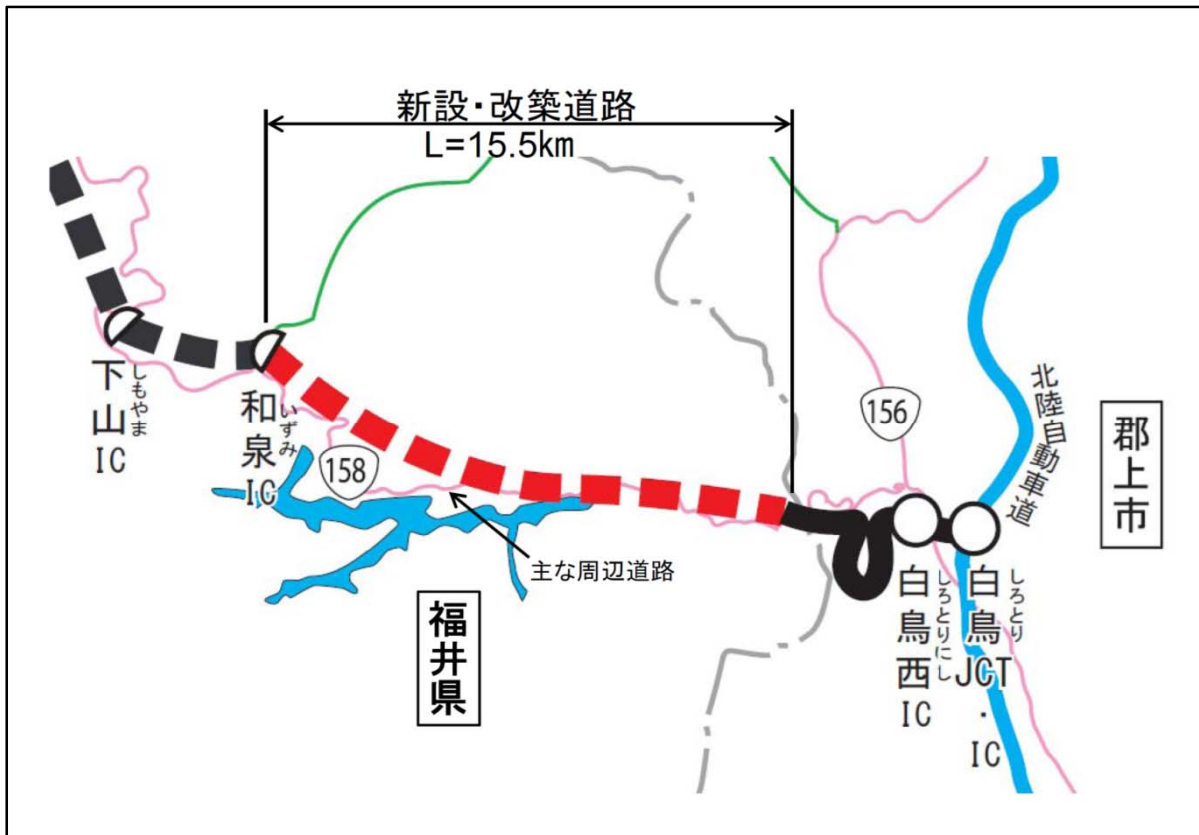
※2： 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。

※3： 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。

※4： 当該事業により大きな変化が生じる道路について3～5路線程度以内で記載する。

※5： ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。

(2) 図面(①、②に該当する道路を明示すること)



費用便益分析の条件

事業名：大野油坂道路(和泉・油坂区間)

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)	<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他	<input type="checkbox"/>	
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	平成28年	
交通流の推計時点	1時点のみ推計	<input checked="" type="checkbox"/> (H42)	
	複数時点での推計	<input type="checkbox"/>	
推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	<input checked="" type="checkbox"/>	
	整備の有無のいずれかのみ推計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	いずれかのみ の推計の場合	いずれかのみ の推計とした理由を記載	
推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	<input checked="" type="checkbox"/> (H17センサスベース)	
	パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	<input type="checkbox"/>	
	その他()	<input type="checkbox"/>	
開発交通量の考慮	無	<input checked="" type="checkbox"/>	
	有	<input type="checkbox"/>	
	有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数) 考慮した理由を記載 ()台トリップ/日	
配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	転換率式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	Q-V式と転換率式の併用による配分	<input type="checkbox"/>	
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法の 採択理由	小規模事業である	<input type="checkbox"/>
		山間部海岸部で併行道路が少ない	<input type="checkbox"/>
	その他()		
	簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)		
	その他(BPR関数と転換率式の併用による配分)	<input checked="" type="checkbox"/>	
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付け して設定 採用理由を記載	<input type="checkbox"/>	
	最終配分の速度	<input checked="" type="checkbox"/>	
	採用理由を記載 分割回毎の極端な速度差が生じないBPR関数の適用に併せて、最終速度を採用。		
	その他()	<input type="checkbox"/>	

(3)

項目		チェック欄		
便益の算定	休日交通の影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	面的に考慮	<input type="checkbox"/>
			対象路線のみ考慮	<input type="checkbox"/>
	採用した休日係数 休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載		() %	
	災害等による通行止めの影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	採用した通行止め日数 採用した通行止め日数の考え方を記載	() 日
			とり止め交通を考慮する とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載	<input type="checkbox"/>
	冬期交通の影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
考慮する		<input type="checkbox"/>		
考慮する場合のみ		採用した冬期日数 採用した冬期日数の考え方を記載	() 日	
		冬期の走行速度と交通容量の関係 設定の考え方を記載		
交通流推計の時点以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	<input checked="" type="checkbox"/>		
	その他 ()	<input type="checkbox"/>		
車種別時間価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
車種別走行経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
交通事故減少便益算定	中央分離帯の有無を考慮	<input type="checkbox"/>		
	中央分離帯の有無を考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
走行時間短縮・走行経費減少・交通事故減少以外の便益	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
	考慮する (考慮の場合、算出根拠を添付すること)	<input type="checkbox"/>		
その他				

費用の現在価値算定表(事業全体)

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 国道158号 大野油坂道路(和泉・油坂区間)

年次	年度	割引率	GDP デフレータ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
				単価(億円)		延長(km)	単純単価(億円)
				0.21	15.5	3.31	
-11年目	H 24	1.1699	91.3	3.18	3.80		
-10年目	H 25	1.1249	91.1	2.34	2.70		
-9年目	H 26	1.0816	93.3	3.70	4.01		
-8年目	H 27	1.0400	93.3	3.33	3.47		
-7年目	H 28	1.0000	93.3	4.64	4.64		
-6年目	H 29	0.9615	93.3	24.52	23.57		
-5年目	H 30	0.9246	93.3	28.03	25.92		
-4年目	H 31	0.8890	93.3	112.63	100.13		
-3年目	H 32	0.8548	93.3	157.12	134.30		
-2年目	H 33	0.8219	93.3	155.32	127.66		
-1年目	H 34	0.7903	93.3	56.52	44.67		
供用開始年次	H 35	0.7599	93.3			3.06	2.33
1年目	H 36	0.7307	93.3			3.06	2.24
2年目	H 37	0.7026	93.3			3.06	2.15
3年目	H 38	0.6756	93.3			3.06	2.07
4年目	H 39	0.6496	93.3			3.06	1.99
5年目	H 40	0.6246	93.3			3.06	1.91
6年目	H 41	0.6006	93.3			3.06	1.84
7年目	H 42	0.5775	93.3			3.06	1.77
8年目	H 43	0.5553	93.3			3.06	1.70
9年目	H 44	0.5339	93.3			3.06	1.64
10年目	H 45	0.5134	93.3			3.06	1.57
11年目	H 46	0.4936	93.3			3.06	1.51
12年目	H 47	0.4746	93.3			3.06	1.45
13年目	H 48	0.4564	93.3			3.06	1.40
14年目	H 49	0.4388	93.3			3.06	1.34
15年目	H 50	0.4220	93.3			3.06	1.29
16年目	H 51	0.4057	93.3			3.06	1.24
17年目	H 52	0.3901	93.3			3.06	1.20
18年目	H 53	0.3751	93.3			3.06	1.15
19年目	H 54	0.3607	93.3			3.06	1.11
20年目	H 55	0.3468	93.3			3.06	1.06
21年目	H 56	0.3335	93.3			3.06	1.02
22年目	H 57	0.3207	93.3			3.06	0.98
23年目	H 58	0.3083	93.3			3.06	0.94
24年目	H 59	0.2965	93.3			3.06	0.91
25年目	H 60	0.2851	93.3			3.06	0.87
26年目	H 61	0.2741	93.3			3.06	0.84
27年目	H 62	0.2636	93.3			3.06	0.81
28年目	H 63	0.2534	93.3			3.06	0.78
29年目	H 64	0.2437	93.3			3.06	0.75
30年目	H 65	0.2343	93.3			3.06	0.72
31年目	H 66	0.2253	93.3			3.06	0.69
32年目	H 67	0.2166	93.3			3.06	0.66
33年目	H 68	0.2083	93.3			3.06	0.64
34年目	H 69	0.2003	93.3			3.06	0.61
35年目	H 70	0.1926	93.3			3.06	0.59
36年目	H 71	0.1852	93.3			3.06	0.57
37年目	H 72	0.1780	93.3			3.06	0.55
38年目	H 73	0.1712	93.3			3.06	0.52
39年目	H 74	0.1646	93.3			3.06	0.50
40年目	H 75	0.1583	93.3			3.06	0.49
41年目	H 76	0.1522	93.3			3.06	0.47
42年目	H 77	0.1463	93.3			3.06	0.45
43年目	H 78	0.1407	93.3			3.06	0.43
44年目	H 79	0.1353	93.3			3.06	0.41
45年目	H 80	0.1301	93.3			3.06	0.40
46年目	H 81	0.1251	93.3			3.06	0.38
47年目	H 82	0.1203	93.3			3.06	0.37
48年目	H 83	0.1157	93.3			3.06	0.35
49年目	H 84	0.1112	93.3	-3.45	-0.38	3.06	0.34
合計				547.88	474.49	153.24	52.00
単純事業費計				551.33		153.24	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。
(投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表(残事業)

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 国道158号 大野油坂道路(和泉・油坂区間)

単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
0.21	15.5	3.31

年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-6年目	H 29	0.9615	93.3	24.52	23.57		
-5年目	H 30	0.9246	93.3	28.03	25.92		
-4年目	H 31	0.8890	93.3	112.63	100.13		
-3年目	H 32	0.8548	93.3	157.12	134.30		
-2年目	H 33	0.8219	93.3	155.32	127.66		
-1年目	H 34	0.7903	93.3	56.52	44.67		
供用開始年次	H 35	0.7599	93.3			3.06	2.33
1年目	H 36	0.7307	93.3			3.06	2.24
2年目	H 37	0.7026	93.3			3.06	2.15
3年目	H 38	0.6756	93.3			3.06	2.07
4年目	H 39	0.6496	93.3			3.06	1.99
5年目	H 40	0.6246	93.3			3.06	1.91
6年目	H 41	0.6006	93.3			3.06	1.84
7年目	H 42	0.5775	93.3			3.06	1.77
8年目	H 43	0.5553	93.3			3.06	1.70
9年目	H 44	0.5339	93.3			3.06	1.64
10年目	H 45	0.5134	93.3			3.06	1.57
11年目	H 46	0.4936	93.3			3.06	1.51
12年目	H 47	0.4746	93.3			3.06	1.45
13年目	H 48	0.4564	93.3			3.06	1.40
14年目	H 49	0.4388	93.3			3.06	1.34
15年目	H 50	0.4220	93.3			3.06	1.29
16年目	H 51	0.4057	93.3			3.06	1.24
17年目	H 52	0.3901	93.3			3.06	1.20
18年目	H 53	0.3751	93.3			3.06	1.15
19年目	H 54	0.3607	93.3			3.06	1.11
20年目	H 55	0.3468	93.3			3.06	1.06
21年目	H 56	0.3335	93.3			3.06	1.02
22年目	H 57	0.3207	93.3			3.06	0.98
23年目	H 58	0.3083	93.3			3.06	0.94
24年目	H 59	0.2965	93.3			3.06	0.91
25年目	H 60	0.2851	93.3			3.06	0.87
26年目	H 61	0.2741	93.3			3.06	0.84
27年目	H 62	0.2636	93.3			3.06	0.81
28年目	H 63	0.2534	93.3			3.06	0.78
29年目	H 64	0.2437	93.3			3.06	0.75
30年目	H 65	0.2343	93.3			3.06	0.72
31年目	H 66	0.2253	93.3			3.06	0.69
32年目	H 67	0.2166	93.3			3.06	0.66
33年目	H 68	0.2083	93.3			3.06	0.64
34年目	H 69	0.2003	93.3			3.06	0.61
35年目	H 70	0.1926	93.3			3.06	0.59
36年目	H 71	0.1852	93.3			3.06	0.57
37年目	H 72	0.1780	93.3			3.06	0.55
38年目	H 73	0.1712	93.3			3.06	0.52
39年目	H 74	0.1646	93.3			3.06	0.50
40年目	H 75	0.1583	93.3			3.06	0.49
41年目	H 76	0.1522	93.3			3.06	0.47
42年目	H 77	0.1463	93.3			3.06	0.45
43年目	H 78	0.1407	93.3			3.06	0.43
44年目	H 79	0.1353	93.3			3.06	0.41
45年目	H 80	0.1301	93.3			3.06	0.40
46年目	H 81	0.1251	93.3			3.06	0.38
47年目	H 82	0.1203	93.3			3.06	0.37
48年目	H 83	0.1157	93.3			3.06	0.35
49年目	H 84	0.1112	93.3	-3.35	-0.37	3.06	0.34
合計				530.79	455.88	153.24	52.00
単純事業費計				534.14		153.24	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。
(投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

(事業全体)

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道158号	大野油坂道路(和泉・油坂区間)	2	15.5km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					53,720	
改良費					7,450	
	土工		m ³	1,778,910	3,300	切土(413,960m ³)、盛土(452,970m ³)、捨土(911,980m ³)
	深礎工		本			
	法面工		式	1	1,060	切土法面、盛土法面
	雪崩予防柵		m	180	90	
	擁壁工		式	1	230	補強土壁、重力式擁壁、ブロック積擁壁等
	施設工		式			
	函渠工		式	1	10	
	排水工		式	1	2,480	
	中央分離帯工		m	7,320	270	
	情報管路工		Km			
	雑工		式	1	10	
橋梁費					15,370	
	橋梁		m	2,700	15,370	
トンネル費					26,540	
	NATM		m	10,300	26,540	
IC・JCT費					790	
	IC		箇所	2	790	変形ダイヤモンド型(1)、OFF・ONランプ(1)
	JCT		箇所			
舗装費					3,450	
	車道舗装		m ²	173,170	3,450	
	歩道舗装		m ²			
付帯施設費					120	
	付帯工事費		式	1	120	標識工、防護柵工、道路照明等
②用地及補償費					405	
用地費			m ²	129,838	345	
	宅地		m ²			
	田畑		m ²	7,422	120	
	山林・原野		m ²	121,397	215	
	その他		m ²	1,019	10	畑(耕地あざ)
	補償費		式	1	60	
③間接経費					5,375	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費
全体事業費					59,500	

(残事業)

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道158号	大野油坂道路(和泉・油坂区間)	2	15.5km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					53,720	
	改良費				7,450	
		土工	m ³	1,778,910	3,300	切土(413,960m ³)、盛土(452,970m ³)、捨土(911,980m ³)
		深礎工	本			
		法面工	式	1	1,060	切土法面、盛土法面
		雪崩予防柵	m	180	90	
		擁壁工	式	1	230	補強土壁、重力式擁壁、ブロック積擁壁等
		施設工	式			
		函渠工	式	1	10	
		排水工	式	1	2,480	
		中央分離帯工	m	7,320	270	
		情報管路工	Km			
		雑工	式	1	10	
	橋梁費				15,370	
		橋梁	m	2,700	15,370	
	トンネル費				26,540	
		NATM	m	10,300	26,540	
	IC・JCT費				790	
		IC	箇所	2	790	変形ダイヤモンド型(1)、OFF・ONランプ(1)
		JCT	箇所			
	舗装費				3,450	
		車道舗装	m ²	173,170	3,450	
		歩道舗装	m ²			
	付帯施設費				120	
		付帯工事費	式	1	120	標識工、防護柵工、道路照明等
②用地及補償費					395	
	用地費		m ²	115,720	335	
		宅地	m ²			
		田畑	m ²	7,420	120	
		山林・原野	m ²	107,280	205	
		その他	m ²	1,020	10	畑(耕地あざ)
	補償費		式	1	60	
③間接経費					3,545	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費
全体事業費					57,660	

全事業 / 残事業

路線名	箇所名	車線数	延長
中部縦貫自動車道	大野油坂道路(和泉・油坂区間)	2	15.5km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	15.5	5,250	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	11,300	路面補修、構造物の点検・補修等
維持管理費合計			16,550	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。

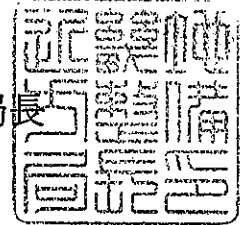


国近整企画152号

平成28年11月9日

福井県知事 殿

近畿地方整備局長



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針
(原案)の作成に係る意見照会について(依頼)

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対する御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領(以下「実施要領」という。)に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を図るべく、近畿地方整備局事業評価監視委員会(以下「委員会」という。)において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、平成28年12月6日(火)に委員会を開催することとなりましたので、実施要領に基づき、委員会に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、平成28年11月28日(月)までに、別紙について貴職の御意見を承りたく依頼いたします。

※御意見の送付・問い合わせ先

近畿地方整備局 企画部 企画課 事業評価係

電話 06-6942-1141

FAX 06-6942-7463

(再評価)

【道路事業】

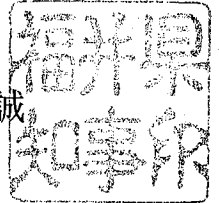
事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
一般国道8号福井バイパス	事業継続	
一般国道158号大野油坂道路 (和泉・油坂区間)	事業継続	

※貴県の意見を踏まえ、近畿地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。

土政推第277号
平成28年11月30日

近畿地方整備局長 様

福井県知事 西川 一誠



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る
対応方針（原案）の作成に係る意見照会について（回答）

平成28年11月9日付け国近整企画152号にて照会のありました標記の件について、下記のとおり回答します。

記

- 1 国道8号福井バイパスの対応方針（原案）「事業継続」については異存ありません。

国道8号福井バイパスのあわら市笹岡～坂井市丸岡町玄女間5.4kmについては、平成30年9月開催予定の「福井しあわせ元気国体」までの開通が公表されたところであるが、国体の競技会場へのアクセス向上はもとより、更なる企業立地や物流の安定、広域的な周遊観光など、地方創生を加速させるためには必要不可欠であるため、4車線での早期完成をお願いしたい。

- 2 一般国道158号大野油坂道路（和泉・油坂区間）の対応方針（原案）「事業継続」については異存ありません。

大野油坂道路については、北陸新幹線敦賀開業に合わせた平成34年度までの全線開通が図られるよう必要な予算を確保するとともに、本区間および大野・大野東区間の速やかな用地買収・工事着手と大野東・和泉間の迅速な工事の実施をお願いしたい。

3 その他の意見

(イ) 直轄事業のコスト縮減について

直轄事業を推進するにあたり、コスト縮減を厳正に行うとともに、建設発生土の利用等によるコスト縮減に最大限努めていただきたい。

(ロ) 事業評価監視委員会

事業評価監視委員会の委員選定に当たっては、地方を代表する委員も選定するようお願いしたい。

(ハ) 地方への意見聴取

直轄事業負担金の負担者として、事業全体を見て判断する必要があるため、事業全体の見通しについても意見を述べる機会とするようお願いしたい。